

認知機能低下の方に寄り添う通いの場の試行実施アンケートについて（結果）

認知症との共生を目指し、認知機能が低下しても通い続けられるような通いの場の取組みを行っている。現在試行事業に参加している6団体を対象にアンケートを実施したため、下記の通り報告する。

1. 目的 試行内容の評価を行うため
2. 方法 市担当者が直接訪問し実施
3. 集計結果

【回答数】地域介護予防教室 3教室 78人 / 近トレ 3団体 23人

① 認知症機能低下に対する受け止めが変わったか

	変わった	少し変わった	あまり変わらない	変わらない	未記入
教室	22人	25人	15人	9人	7人
近トレ	3人	16人	2人	2人	0人

② 新たな気づきがあったか

	ある	ない	どちらでもない	未記入
教室	34人	12人	16人	16人
近トレ	15人	4人	3人	1人

③ プログラムの中で得た知識を誰かに話したいと思うか

	話したい	少し話したい	あまり話したくない	話したくない	未記入
教室	25人	24人	11人	7人	11人
近トレ	7人	12人	3人	0人	1人

④ テキストの内容の多さは適切か

	適切	多い	少ない	どちらでもない	未記入
教室	41人	4人	8人	11人	14人
近トレ	17人	1人	2人	1人	2人

⑤ テキストの文字の大きさは適切か

	適切	大きすぎる	小さすぎる	未記入
教室	57人	2人	6人	13人
近トレ	21人	1人	1人	0人

⑥ テキストの文字の量は適切か

	適切	多すぎる	少なすぎる	未記入
教室	51 人	3 人	8 人	16 人
近トレ	18 人	4 人	1 人	0 人

⑦ テキストのレイアウトについてどう思うか

	読みやすい	読みにくい	どちらでもない	未記入
教室	43 人	1 人	7 人	19 人
近トレ	10 人	0 人	3 人	0 人

⑧ テキストの P5～P9（啓発）の内容は適切か

	適切	難しすぎる	簡単すぎる	その他	未記入
教室	38 人	2 人	4 人	4 人	30 人
近トレ	20 人	0 人	1 人	0	2 人

⑨ テキストの P10～P18（アクティビティ）の内容についてあてはまるものにチェック

	適切	難しすぎる	簡単すぎる	アクティビティの数を増やしてほしい	効果の解説を増やしてほしい	アレンジの数を増やしてほしい	ワンポイントアドバイスの数を増やしてほしい	その他	未記入
教室	33 人	4 人	3 人	8 人	11 人	6 人	7 人	5 人	28 人
近トレ	12 人	2 人	0 人	2 人	3 人	0 人	1 人	2 人	7 人

⑩ 専門職の支援の頻度は適切か

	適切	多い	少ない	どちらでもない	未記入
教室	25 人	3 人	7 人	9 人	34 人
近トレ	12 人	0 人	3 人	2 人	6 人

⑪ 専門職の支援内容についてどう思うか

	良い	まあまあ良い	あまり良くない	良くない	未記入
教室	26 人	18 人	0 人	1 人	33 人
近トレ	16 人	0 人	1 人	0 人	6 人

⑫ その他自由意見

●教室

- ・体操の後、25分から30分以内に収めてほしい ・週2回くらいあると助かる
- ・仲間が悲しい状況の時、寄り添える地域づくり、専門者の掛け付けシステムが重要
- ・脳トレの数を増やして欲しい 等

●近トレ

- ・高齢になると色々考えることが多くなる ・とても楽しく学べる時間だった 等

4. まとめ・考察

アンケートの結果、設問1・2・3（啓発）で、教室に比べ近トレの方が前向きな回答が多かった。これは、教室は人数が多く一人一人が認知機能低下を自分ごとにする意識にばらつきがあったこと、人数が多いため手箱等共通のツールを使用するのが難しかったこと、当然ながら世話人と参加者の間では意識の差があることなどが考えられる。

一方近トレでは、全員が役割をもって日頃から活動しており、また教室に比べ参加者が少ないこと、活動の自由度が高いことなどからプログラムを取り入れやすかったのではないかと考えられる。

教室で実施する場合は、参加者含め全体にアクティビティ紹介をするのではなく、世話人にレクチャーをするなど、方法に工夫が必要と考えられる。

10月からの本格実施にあたっては、テキストの修正や支援体制の見直しのみでなく、対象団体の再考も必要である。また、本集計は教室・近トレ別のものだが、世話人・参加者別でも集計し、本格実施に向けての検討を行っていく。

5. 今後のスケジュール

目 程	内 容
6～7月	事業の見直し
9月	事業全体の評価（世話人・参加者へアンケート調査実施）
10月～	対象団体の拡大・事業の本格実施

以 上